

## 堆肥無料配布事業(H19～H20)

- 産業まつりで好評の堆肥無料配布→定期的に開催  
(5月、8月、11月、2月)
- 堆肥のPRと利用促進
- 85～150名／回が参加      主に家庭菜園



地域の人への畜産理解醸成には効果が  
あったが、定期的な流通ルート確保には・・・

# 堆肥の広域流通

親交を深めた県北西部の  
水田農家集団への堆肥の  
**広域流通が開始**

- 平成17年度試験供給
- 平成19年度 水田農家が「減農薬減化学肥料栽培」に本格的に取り組む  
→ **堆肥供給量も飛躍的に増加**
- 半田市及び愛知県の補助事業を活用
- **トランスバックによる輸送**  
→ 扱いやすさから好評！

背景：平成20年頃 燃油価格高騰 → 化学肥料価格高  
→ 減化学肥料栽培へ



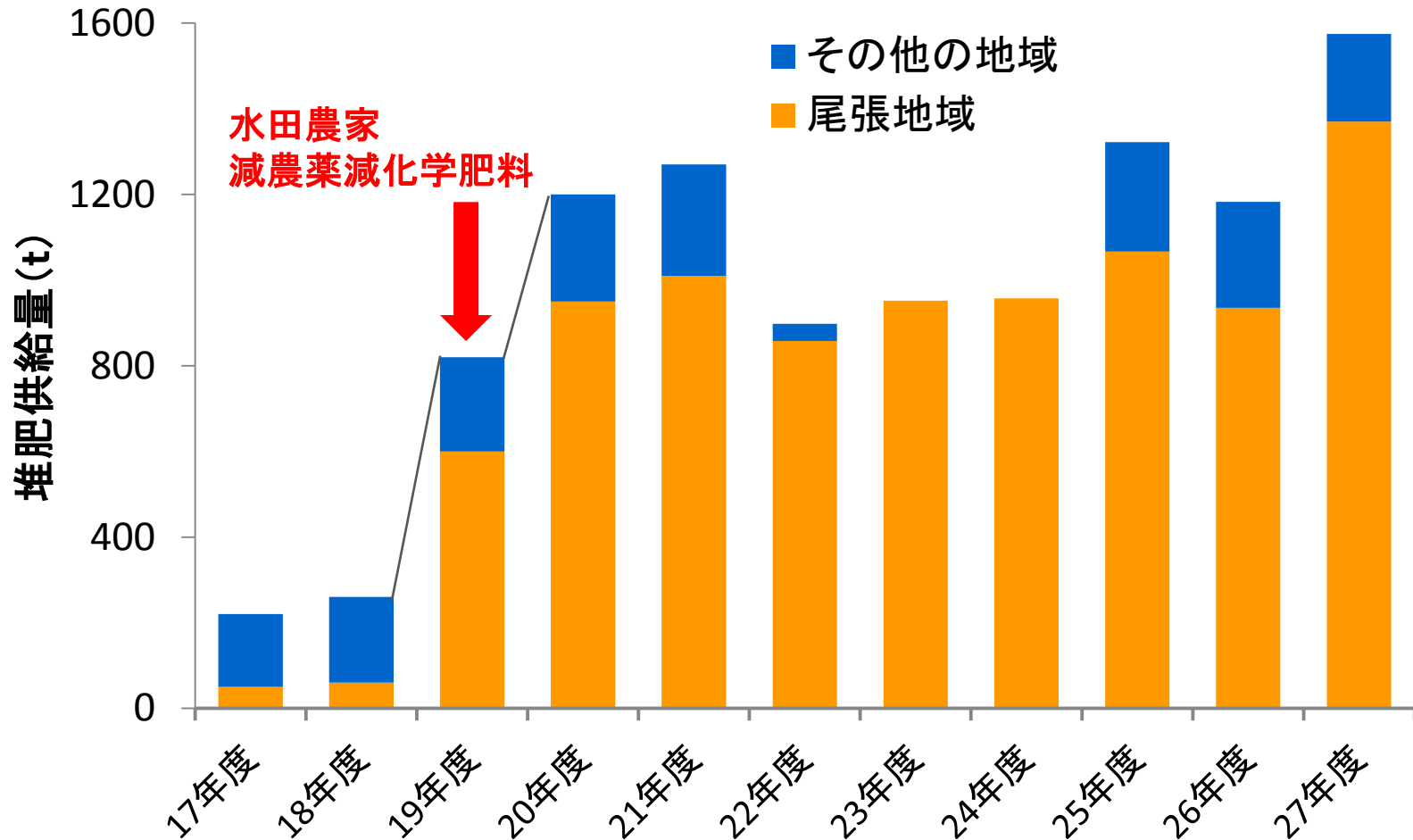


# トランスバックでの堆肥輸送 (H17～)



# 堆肥の広域流通

## 耕畜連携による堆肥の広域流通の推移



さらに

# 堆肥供給と飼料利用 循環型の耕畜連携へ

## 1 稲WCS

平成19年度 稲WCS研修会

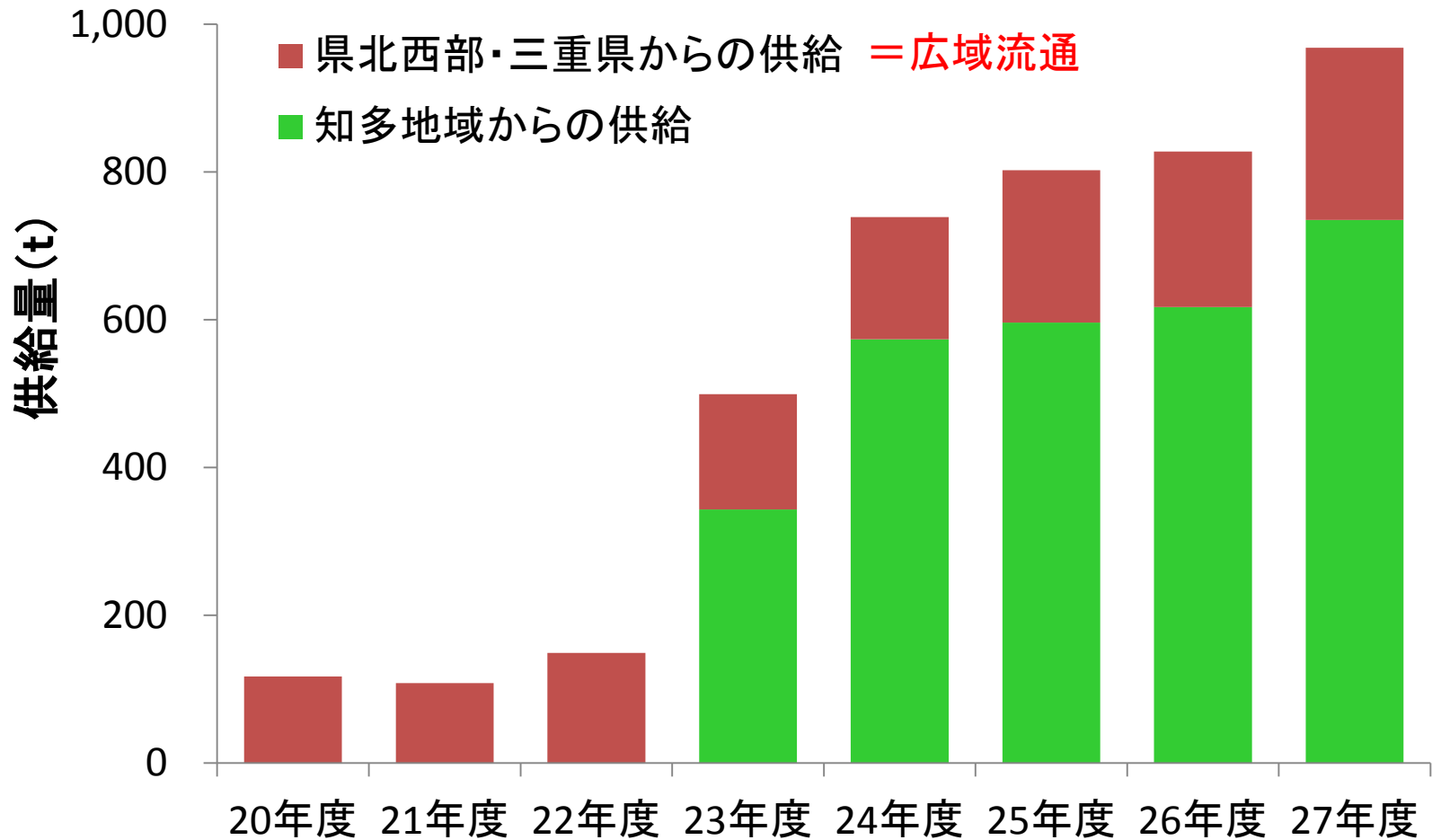
- 先進地講師による講演
- 特徴や給与方法など意見交換

平成20年度 県北西部の水田農家集団が  
稲WCSの生産開始

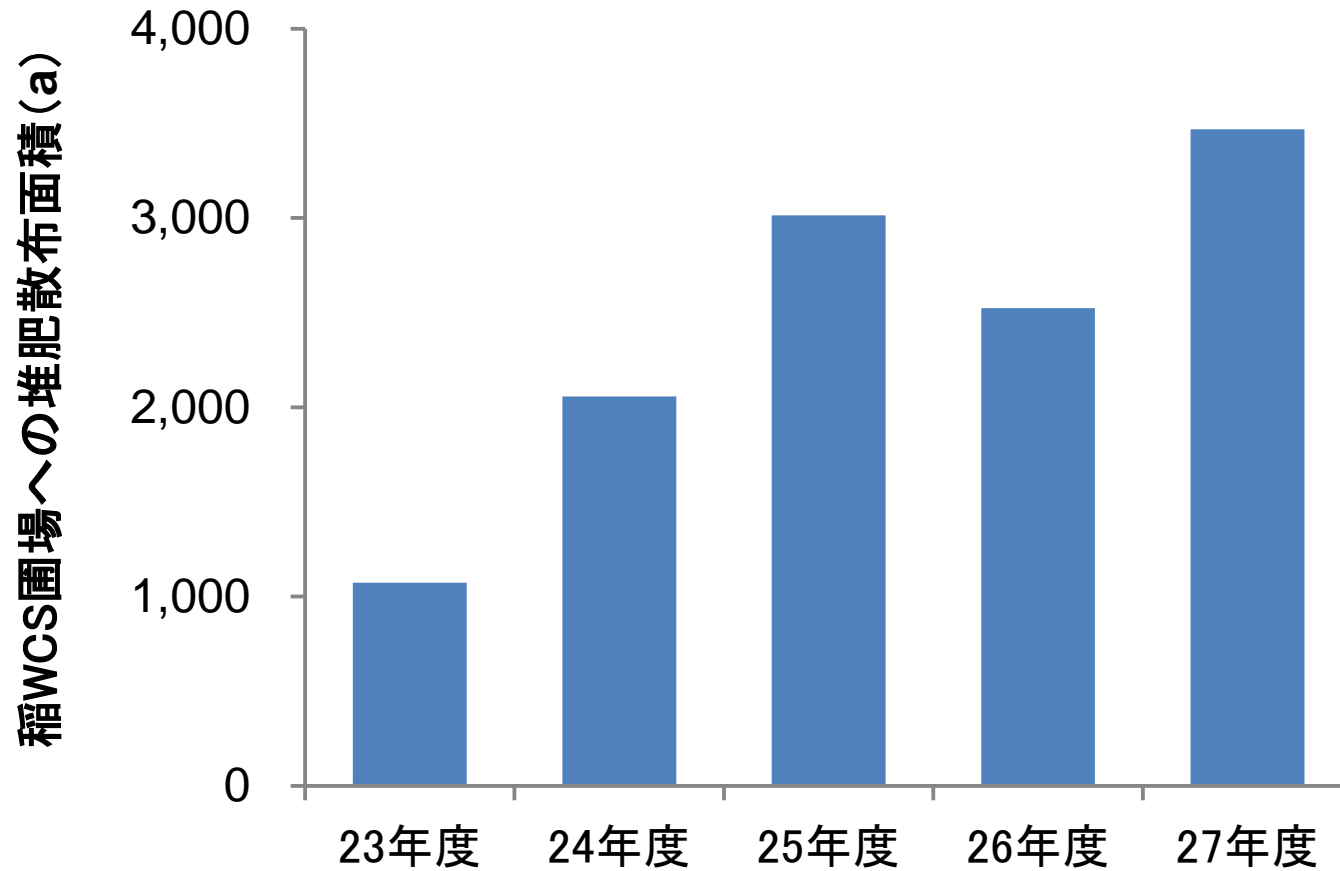


**”堆肥供給”と”飼料利用”の  
循環型の耕畜連携体制がスタート**

# 稲WCS供給量



# 稲WCS圃場への堆肥供給





# 堆肥供給と飼料利用 循環型の耕畜連携へ

## 2 飼料用米

農家対農家の直接相対取引

平成25年度 耕畜連携フォーラムで意見交換会

平成25年度～ 肉牛(組合員)での利用

平成27年度～ 半田市酪農組合飼料配合所での利用



県北西部や三重県(隣県)からも10t車で**広域輸送**







# 堆肥供給と飼料利用 循環型の耕畜連携へ

## 3 稲わら



**地域循環システムの確立**

# 広域流通を含めた地域循環システムが 確立できた理由

- 地域リーダーの存在・人柄
- 地域、量がまとまっている
- 1戸当たりの飼養規模が大きい
  - 耕種農家と結びつかないと堆肥の処理、  
自給飼料生産ができない
- 堆肥以外でも「広域的な繋がり」の経験があった
  - 初妊牛導入：北海道
  - 肉牛（知多牛）出荷：大阪市場

# 今後の課題

- トラブル発生時のルール化、補償体制等

農家対農家の相対取引のメリット・デメリット

直接の相対

=

メリット

- ・余分な手数料が発生しない
- ・相手の顔が見える

一方



デメリット

不良品等トラブル発生時の対応が難しい

- 堆肥生産コストに見合う価格での販売



# 耕畜連携

- お互いに相手のことを理解することが大切

稲WCS、飼料用米等手間暇掛けて生産してくれている

その「ありがたみ」を畜産農家が理解する

稲作農家も、稲WCSや稲わらを牛が「食べる物」と理解する

- 「商品」とであるという意識が大切

- 原点に返ってきた

昔は畜産農家が秋に稲わらを収集、堆肥を撒くというのは、  
普通に見られた光景

ご静聴ありがとうございました